

大津地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	7,462人	民生委員児童委員	14人
65歳以上人口	2,673人	幼稚園・保育所 認定こども園	3か所
高齢化率	35.8%	小・中学校	2校
年少者(0～14歳)人口	796人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△5.1ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	1.0ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△7.9ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	2.1ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- コロナ禍の中で、これまで行ってきた行事が出来なくなり、地域の中の繋がりが減っている。特に世代間交流の場が少ない。
- 地域にもよるが、公共交通の不便さを感じる。
- 災害時の避難場所がわかっていないなど、防災への関心が薄い人がいる。
- 移動スーパーなどの利用者が増えてきている。
- 地域の繋がりを再構築するために、祭りや芋ほり、ジャンボ鍋など子どもが参加できる催しに取り組んでいる。
- 防災に関して、地域の特性に応じた形で各地区での会合が行われている。

3. 地区で取り組むこと

地域の繋がりを再構築するための取り組みを進める

1. 以前に行っていたソフトボール大会やグラウンドゴルフなど、現役世代が参加できる催しを再開できるよう各団体で取り組んでいく。
2. 神輿、獅子舞、祭りなどの伝統的な行事を次の世代に引き継いでいけるよう、若い世代のリーダーへの働きかけを行う。
3. 自治会などの会合を多く開催し、小地域単位でのつながりを深めていく。

買い物や通院などの移動手段確保の仕組みづくり

1. 介護タクシーなど高齢者世代が利用できる制度について周知することで、不便さが解消できるよう取り組んでいく。
2. 隣人への声掛けによる個人的な買い物支援などの小さな「互助」から始め、必要に応じて規模を拡大していく。(社協のワゴン車の活用など)

日常生活の中で防災意識を高めていく

1. 災害時の対応について話し合うなど、消防団と自主防災組織の連携を進めていく。
2. 避難場所への案内板を掲示するなど、多くの人にわかりやすい防災情報を提供していく。
3. 非常食や防災用品を提供、地元食材を使った炊き出しなど、興味を引く内容で多くの人が参加しやすい防災訓練を行う。

